

2020 年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

幼稚園から大学院まで連なる総合学園としての関西学院は、その良さを生かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施するため、接続する学校の教職員から専門的な視点による意見をうかがうことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、中学部の学校評価が学院総合企画会議（短大・各学校内部質保証部会）において承認されましたので、ウェブサイト上で公表させていただきます。

本年度も、経年変化を見るために、引き続き「教育課程・学習指導」、「生徒指導」、「保健管理」、「保護者との連携」、「キリスト教主義教育の実践」、「特色ある教育の実践」を評価項目に設定しました。評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケート調査を行い、それぞれの立場からの意見を集めることによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、生徒 99.3%、保護者 74.3%、教員 97.1%となっております。

昨年度の学校評価から設定した関西学院のスクールモットー “Mastery for Service” に関する項目では、生徒・保護者とも、その認知度・共感度が昨年度より微増となりました。コロナ禍の中で得られたこの声に感謝するとともに、建学の精神に即した教育活動に引き続き邁進していく力が与えられた次第です。

そのコロナ禍への学校の対応についての本年度特設項目では、休校期間中の学習に対する生徒の肯定評価が 6 割弱でした。このことを真摯に受け止め、ウイズコロナ・ポストコロナを見据えた教育の在り方を模索する一助としたいと考えています。

本年度も各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果を参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた方策を示し、自己点検・評価としました。また、上記のように、接続する学校の教職員からの意見も合わせて中学部の学校評価としてまとめています。

関西学院中学部は、学校評価を通じて自らその課題を探り、それに向き合って改善することによって、より充実した教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

2020 年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを、以下に掲載いたします。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願いたします。

2021 年 3 月 19 日
関西学院中学部
部長 藤原 康洋

学校評価

教育理念・使命・目標

中学部がめざす教育の目標

1. キリスト教に基づいた伝統ある人間教育を根本に置いて、「感謝・祈り・練達」の教育理念を大切に、人の痛みをわかろうとする人間、他者を尊重し将来に夢を持って社会に貢献できる人間を育てる。
2. 建学の精神を体得した生徒を育てることにより、将来、高等部、大学、さらに社会人として、リーダー的役割を果たせる人間を育てる。

2020年度の評価項目

- ①教育課程・学習指導：全生徒に対して中学部がめざす水準の基礎学力を定着させるとともに、学力上位生徒に対して、興味関心に応じた発展的学習を行うため、学習課程の精査や教授力の向上をめざして設定している。
 - ②生徒指導：生徒の社会的資質や行動力を高め、学校が生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることをめざして設定している。
 - ③保健管理：生徒の身体面、精神面にかかわる項目として設定している。
 - ④保護者との連携：生徒を育てるには学校教育と家庭教育に一貫性が必要である。そのため保護者と教員の連携が密になるように設定している。
 - ⑤キリスト教主義教育の実践：建学の精神としてのキリスト教主義教育の充実をめざし設定している。
 - ⑥特色ある教育の実践：中学部の特色として重点的に展開している授業や行事等の充実をめざし設定している。
 - ⑦関西学院共通項目：スクールモットー“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成をめざし設定している。
 - ⑧その他：コロナ禍の中で、学校が適切な対応がとれることをめざし設定している。
- 以上の8項目。

2020年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【教育課程についての共通理解と連携】	自己評価	B
目標	教員による教育課程の全体像の理解		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●毎年、学習ガイドブックを作成し、生徒に対する教科学習へのガイダンスを行っているが、同時に教員も、そこから各教科の概要を把握・理解できるように期待をしている。 ●学力推移調査等の外部試験の結果および分析を全教員に開示することによって、客観的な学習到達状況を周知している。また、外部試験だけでなく学内での定期試験、学習評価等の分析を行い全教員に結果の開示を行っている。 ●個別生徒の学習状況について、隔週の教員会議などで適宜、情報交換を行っている。 ●教員アンケート問1「教員は、教育課程の全体を理解している。」の項目についての肯定的評価が88.2%と、昨年度の75.7%より向上している。休校中や長期休暇中の課題一覧の共有や、オンライン授業の授業動画の相互閲覧などが奏功していると考えられる。 		

今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●本項目については、従前の取組を継続的に行うとともに、それが実効的に働くよう、研修的な取組も行う。 ●次年度は1年生がBYODを開始するので、教科横断的な取組や、各教科の目標・学習活動などについての情報交換を行う
-------	---

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【生徒の学力・体力の的確な把握】	自己評価	A
目標	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握／教員による学力や体力評価についての理解向上		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●従来通り、定期試験だけでなく、小試験、口頭試問、課題提出、日々の学習活動への意欲等を含め、細やかな学力評価を行っている。 ●外部試験としては学力推移調査を行い客観的な学力把握に努めている。 ●日本漢字能力検定、実用英語技能検定を受検し、生徒らが意欲的に学力向上と学力把握に努めるよう、表彰等を行って、それらを奨励している。 ●外部試験などの結果を返す際、問題の解説にとどまらず、評価数値の持つ意味なども適宜、生徒に説明している。 ●生徒アンケート問6「中学部は、自分の学力や体力を正しくつかんでくれている。」の項目について昨年度同様、80.8%（昨年度84.2%）の生徒が肯定的評価をしている。 ●同旨の質問である保護者アンケート問7「中学部は、生徒の学力や体力を適正に評価している。」でも昨年度同様、90.8%（昨年度88.8%）の肯定的評価が得られている。 ●教員アンケート問2「教員は外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている。」の項目について、肯定的評価が今年度は76.4%、昨年度は78.7%と、これもほぼ同様であった。 		
今後の方策	●概ね、良好な結果が得られているので、従来の取組を継続的に行う。		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【各教科の特性に応じた授業の工夫】	自己評価	B
目標	教員自身による担当教科の特性の理解／より質の高い授業を目指しての教員による不断の研究／授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●従来通り、全教員に対して研修日を設定し、また個人及び教科研究費を支給し、研鑽の機会を確保している。 ●各教科で独自教材を活用し、基礎学力の定着をはかっている。 ●生徒アンケート問8「授業は、さまざまな工夫が加えられていて分かりやすい。」の項目について、肯定的評価が82.2%（昨年度82.5%）得られており、この傾向は数年来変わっていない。 ●教員アンケート問3「教員は、自らが担当する教科の特性を理解している。」の項目について、肯定的評価が97.0%であった。昨年度は91.0%であり、この傾向は数年来変わっていない。 ●教員アンケート問4「教員は、質の高い授業を目指して、授業研究を不断に行っている。」に対する肯定的評価は85.3%（昨年度84.9%）、教員アンケート問5「教員は、授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている。」に対する肯定的評価は85.3%（昨年度81.8%）と高い数値を維持している。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ●教員アンケート問6「教員は、知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている。」に対する肯定的評価が76.5%（昨年度75.8%）であったのは、昨年度同様である。 ●教員が授業研究に費やす機会が相対的に減少しているのは気がかりである。これは、教員が日々、授業以外で生徒対応、学級経営や課外活動への対応に追われていることが原因と考えられる。
今後の方策	●働き方改革を含め、各教員が自己研鑽を行えるような環境の整備を行う。

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【個々のニーズや興味関心に応じた授業展開】	自己評価	A
目標	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開／補習など特別な学習機会の提供／中学部と高等部との連携		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●英語と数学の一部の授業に分割少人数化を導入し、授業内で個別生徒に対応できる機会を増やしている。 ●授業では、各教科、発展的、応用的内容を扱うよう努めている。 ●数学、英語では到達度の低い生徒に対し、補習を行っている。他教科においても個別的に遅れの目立つ生徒には、課題を課す等の対応を行っている。 ●生徒間の学力差が大きく、授業内容、進度の焦点を合わせにくくなっているのが現状である。 ●生徒アンケート問9、保護者アンケート問8の、補習等の機会が確保されているかについての項目では、生徒の肯定的評価が84.2%（昨年度91.4%）で、保護者の肯定的評価が65.0%（昨年度69.9%）であり、昨年度と大きく変わらないが、オンライン授業や分散登校、また下校時間を早めたことが若干影響していると考えられる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●英語と数学の一部の授業に分割少人数化を導入し、できる限り生徒の必要性に合わせた授業構築を行う。 ●到達度の低い生徒への対応を継続するとともに、学力が高く、学習意欲も旺盛な生徒の要求にも対応できるよう、習熟度別学習の幅広い導入を検討する。ただし、これの実現に向けた人的・財政的担保は必要である。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【課外活動の充実】	自己評価	A+
目標	生徒会などの自治活動の充実／クラブ活動など課外活動の充実／課外活動が正課（学習）を妨げていないことの徹底		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の多くが、クラブ活動などの課外活動へ意欲的に参加している。また、受験希望者対象の学校説明会などでも、アンケートや個別質問で課外活動への関心の高さがうかがわれる。 ●コロナ禍での学校行事縮小の中でも生徒会主催のリレー大会を行うなど、自治活動を行っている。 ●生徒会活動全般を通じ、自治意識の涵養につとめている。 ●課外活動と学習の両立を図るため、従来どおり、定期試験前1週間はクラブ活動停止としている。 ●学習や家庭・地域での体験ができるように、休暇中のクラブ活動日を、夏期休暇中は18日に制限し、冬期休暇中は停止している。また、学期中のクラブ活動も原則的に週5日に制限している。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒アンケート問4「学校に行くのが楽しい。」に対する肯定的評価が87.9%で、生徒アンケート問5「中学部の教育に満足している。」に対する肯定的評価が85.4%である。保護者アンケート問4「生徒は楽しんで学校に通っている。」に対する肯定的評価が94.0%で、保護者アンケート問5「中学部の教育に満足している。」に対する肯定的評価が86.6%である。これは正課外の活動への期待、評価が高いことを示していると考えられる。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●ここ数年来、アンケートでは概ね良好な評価が得られているので、従来通りの取組を継続していく。 ●学習時間の確保等のため、昨年度からクラブ活動を週5日に制限したことの影響については今後も検証していく必要がある。

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【基本的な生活習慣の確立】	自己評価	A
目標	挨拶や時間厳守などの基本的な社会マナーの指導／整理整頓や環境美化の指導		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●挨拶、時間厳守、身だしなみ等の基本的な社会マナーについては、生徒指導部を中心に全教員で重点的に指導している。 ●整理整頓や環境美化については、風紀美化担当教員と風紀美化委員会が中心となり、教室の掃除や廊下の汚れを取るなど校内美化に努めている。 ●生徒アンケート問13、保護者アンケート問13、教員アンケート問12の基本的な社会マナーについての項目では、生徒の肯定的評価が87.7%、保護者の肯定的評価が88.5%、教員の肯定的評価は79.4%と概ね高い評価を得られている。学年担任団およびクラブ顧問と生徒指導部が連携し重点的に指導を行ってきた結果と思われる。 ●肯定的評価が低く課題となっている教員アンケート問13「中学部は、生徒に整理整頓や環境美化に努めさせている。」の項目については、一昨年度57.5%、昨年度66.7%と上がってきていたが、今年度は55.8%とやや低くなった。新型コロナウイルス感染予防のため、掃除を簡略化し各教室のゴミ箱設置をやめるなどの措置を講じたために、生徒の美化意識向上の具体的な指導ができなかったことが原因だと考えられる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な社会マナーについては、今後も学年担任団およびクラブ顧問と生徒指導部が連携しながら全教員で重点的に指導していく。 ●整理整頓や環境美化の指導については、新型コロナウイルス感染予防策を講じながら風紀美化委員会を中心に生徒会と教員が連携して、美化意識の向上を促していくこととする。 		

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【自主自律の精神の育成】	自己評価	A
目標	HR（学級活動）における自主自律の精神の育成／学校行事における班活動などを通じた自主自律の精神の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●各行事において、生徒会役員がリーダーとなり委員会を組織して、その企画・運営を自主的に行っている。 ●代議員会および各委員会活動の活性化に重点を置き、生徒会活動およびHR活動を中心に自主自律の精神を育てている。 ●今年度は新型コロナウイルス感染拡大により各行事の中止や規模縮小を余儀なくされた。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒アンケート問 10「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。」に対する肯定的評価が 66.2% (昨年度 75.9%) と昨年度よりも 10ポイント程度低くなっているのは、各行事の中止や規模縮小を余儀なくされ、思うように生徒会活動ができなかったためと思われる。一方で保護者アンケート問 14「中学部は、生徒の自主自律の精神を育成している。」に対する肯定的評価は 87.8%と大変高く、教員アンケート問 9「中学部は、生徒会などの自治活動が生徒によって盛んに行われるように配慮している。」に対する肯定的評価も 88.3%と大変高い評価となった。これはコロナ禍の厳しい制約の中で、生徒会役員を中心に、生徒たちが工夫を凝らし行事などに取り組んできた姿が評価されたものと思われる。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染予防や新しい生活様式を考慮しながら、各行事の在り方を模索し、その企画・運営を生徒が自主的に行うことができるように指導する中で、生徒の自主自律の精神を育成していく。 ●新型コロナウイルス感染予防や新しい生活様式を考慮しながら、生徒会活動や委員会活動を活性化し、生徒に自ら判断し行動できる力を身につけさせる。 ●複数年にわたって生徒会を担当する教員と学年担任団との連携を深め、活動の継続性を高めながら活性化していく。

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【問題行動への対応】	自己評価	B
目標	生徒の問題への対応についての教員間での共通理解／生徒の問題行動の早期発見／問題行動に対しての適切な指導・訓戒		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の問題行動に対しては、「迅速・適切・誠実」を念頭におき、当該学年団と生徒指導部が密に連携しながら対応をしている。 ●生徒の問題への対応についての教員間での共通理解については、生徒指導部内に情報共有フォルダーを作成し指導案件の報告をきめ細かに行ってきた。さらに、基本的共通理解のための教員用マニュアルを用いて共通理解と意思統一を進めている。 ●生徒アンケート問 14、保護者アンケート問 15、教員アンケート問 16 の、生徒の行動に問題があれば適切に対応しているかについての項目では、生徒・保護者・教員ともに肯定的評価はおおむね良い。ただし、この項目の生徒の肯定的評価は 83.0%と、教員の肯定的評価の 91.2%に比べるとやや低い。今年度は休校やオンライン授業などの影響で生徒を対面で指導する機会が減り、生徒の問題行動に対してややきめ細かく指導できなかった面があったためと思われる。 ●長年課題であった教員アンケート問 15「生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある。」の項目については肯定的評価が昨年度の 69.7%から 73.5%とやや上がった。まだ不十分であるが、情報共有フォルダーの積極的活用を促した効果が少しあったように思われる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の問題行動に対しては、保護者と担任やクラブ顧問の連携を促し、当該学年団と生徒指導部が密に連携し、きめ細かく指導していく。 ●基本的共通理解のための教員用マニュアルおよび情報共有フォルダーの活用の徹底をさらに進める。 		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【心身の健康管理】	自己評価	A
目標	健康診断の定期的な実施と事後措置／健康状態の把握／健康相談／感染症の予防		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月に新入生健康診断を実施、全校定期健康診断は例年5月に行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症による一斉休校のため8月に実施した。新入生健康診断・定期健康診断の受診率は99.3%だった。 ● 体育や部活動が盛んな本校の特性から、校内での心臓突然死を防ぐために、特に心臓検診には力を入れており、心電図検査を毎年全学年に実施している。事後措置は個々の生徒の保健調査、日々の様子を基に学校医が再判定を行い、心臓検診の質の向上に努めている。その結果教員アンケート問17「中学部は、生徒に対し健康診断を定期的な実施し、事後措置を適切に行っている」の項目についての肯定的評価は100%だった。 ● 心理的な課題を抱える生徒について、週1回サポートルーム会議を実施している。学年主任、支援コーディネーター、支援員、養護教諭、カウンセラーで情報共有を行っている。 ● 生徒アンケート問15、保護者アンケート問16、教員アンケート問18の、生徒の健康について適切に把握しているかについての項目で、生徒の79.7%、保護者の88.8%、教員の97.0%から肯定的評価を受けた。 ● 今年度は特に新型コロナウイルス感染症への対策に力を入れて取り組んだ。学校医指導のもと関西学院危機管理対策本部、関西学院保健館、初等部、高等部と連携を取り、感染防止対策を講じながら学校教育活動を行った。その結果、保護者アンケート問17「中学部は、生徒が健康で安全な学校生活を送れるよう感染症の予防に配慮している」の項目について、93.3%の肯定的評価を受けた。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため関係各所と連携を取りながら、最善の対応が取れるよう努力していきたい。 ● 心理的な課題を抱える生徒の支援について、中学部内だけで対応困難なケースが見受けられる。中学部内にとどまらず、外部機関（児童相談所、医療機関、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤーなど）との連携が必要である。 		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【怪我・急病発生時の対応】	自己評価	A
目標	怪我・急病発生時の迅速で適切な対応		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 平均来室者数は、内科的理由が49.9件/月、外科的理由が56.3件/月である。（2020年12月末現在） ● 日常の疾病、怪我については迅速に、適切に処置できるよう努めている。 ● 病状報告とその対応については、保護者と連携、相談しながら行っている。 ● 学校生活の中で配慮が必要となる生徒の病状とその対応については、教員間で情報を共有している。 ● 生徒アンケート問17、保護者アンケート問18、教員アンケート問20の、怪我・急病発生時の対応についての項目では、生徒の87.9%、保護者の92.4%、教員の97.1%から肯定的評価を受けている。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後も怪我・急病発生時の対応、疾病予防については、迅速かつ適切に対応できるように取り組んでいきたい。 		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【保護者との懇談の実施やPTAとの協議会の運営状況】	自己評価	A
目標	クラス担任と保護者との面談の実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者アンケート問 19「中学部は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。」の項目についての今年度の肯定的評価は69.9%（昨年度85.5%）で、昨年度にくらべると低くなった。しかし、それでも70%近くの評価が出たのは、コロナ禍の中であっても、オンラインを活用するなどの工夫をしながら、面談等をもつことができたからだと考えられる。 ●コロナ禍の中ではあったが、PTA集会、PTA幹事会ともに一度ずつ、もつことができた。 ●PTAだよりの発行は、行事がなくなっていくなか発行が危ぶまれたが、様々なアイデアを持ち寄り、発行することができた。 ●保護者との集会の回数は減ってしまったものの、限られた時間で有意義な意見交換ができた。 		
今後の方策	●学校と保護者の双方の信頼関係を結ぶことが最大の目的であるので、今後、コロナ禍が続くとしても、懇談等を様々な方法でもっていきたい。		

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の理念の共有】	自己評価	A
目標	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●毎日行われている礼拝や聖書科授業、そして様々な行事を中心に、キリスト教主義教育のプログラムを展開し、その理念を生徒、保護者、教員が共有できるような機会を設けている。1学期はオンライン等のリモートでの礼拝や授業に形を変えたが、特に「オンライン礼拝」という新しい礼拝の形を展開できたことは意義深い。保護者に対する「PTA聖書を学ぶ会」は1学期は休会としたが、2学期以降は再開した。なお、3学期は「PTA聖書を学ぶ会」をZoomを利用してリモートで開催し、保護者がキリスト教主義教育に接する機会となっている。 ●生徒アンケート問 18「日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。」の項目についての肯定的評価は85.7%（昨年度82.8%、一昨年度77.9%）、また問 19「キリスト教に関する理解が深まっている。」の項目についての肯定的評価は80.8%（昨年度78.7%、一昨年度76.6%）といずれも3年間で毎年高くなる傾向にある。保護者アンケート問 20「中学部は、キリスト教主義教育を適切に行っている。」の項目についての肯定的評価は96.0%（昨年度96.9%、一昨年度94.7%）と、昨年度と同様に非常に高い評価となっている。コロナ禍の中でありながら、それぞれの肯定的評価が継続的に高い数値であることは注目すべきことである。また、教員アンケート問 22「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している。」に対する肯定的評価が82.4%（昨年度63.6%、一昨年度63.7%）と飛躍的に高くなった。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●創立 131 年の中学部として、受け継がれてきた建学の精神であるキリスト教の精神を守り継ぐために、これからの時代に適応したキリスト教主義教育のあり方を検証し、オンラインでの方法を含め、具体的でかつ新しい教育プログラムを展開する。 ●教員に対して、礼拝の機会だけでなく、理念を共有するための研修を企画し、関西学院内のキリスト教主義教育にかかわる行事等への積極的な参加を呼びかけ 		

	ていく。
--	------

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の推進】	自己評価	A
目標	学校の重要な柱としての礼拝の遵守／生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●キリスト教主義教育の実践として、毎日の礼拝の時間を中心として、生徒と教員がキリスト教精神にふれるプログラムを実施している。 ●全校礼拝が実施できない状況にあるが、学年やクラス単位での礼拝、または放送礼拝等に形を変えて、礼拝を行っている。また、生徒たちが自主的に取り組む生徒礼拝も放送礼拝の形で毎月行い、毎週1回の早天礼拝も定着して行われている。 ●教員アンケート問23「中学部は、礼拝を重要な柱として守っている。」の肯定的評価は97.0%（昨年度84.8%、一昨年度81.8%）と昨年度より12.2ポイント数値が上がったことはこれまでに見られない傾向であり、中学部のキリスト教主義教育における礼拝が重要な柱として受け止められていることが分かる。教員アンケート問24「中学部は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している。」の肯定的評価は76.5%（昨年度78.8%、一昨年度68.8%）と少し下がっている。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●礼拝での奨励や聖書科授業でのカリキュラムを通して、いのち、人権、平和、道徳教育などのさまざまなテーマで、キリスト教主義教育の推進を進めていく。 ●リモート等の方法での礼拝の形を考え、よりよい工夫をしていく。 ●生徒たちの自主的な運営による礼拝がより充実していくよう、指導していく。 		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【読書・図書館教育】	自己評価	A
目標	読書生活の推進と実態把握／図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動の展開／読書・図書館教育に特化した学校行事の実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●設備の整った図書館の活用を勧めるだけでなく、中学部独自の推薦図書リストの作成、読書記録の推奨、国語科・読書科による授業前の10分間読書の実施などを通じて、読書習慣の定着を図っている。 ●読書科の授業を通じ、図書館の利用、情報の獲得・整理・活用・表現の方法や技術を学習している。 ●各省庁や法人・企業などから案内のある募集型のレポートや作文などについて読書科が窓口になり、広く生徒に情報を伝達し、生徒がどれかひとつは応募作品を提出する形で、文芸コンクールを実施している。各コンクールに応募した生徒の中から今年度も十数名の受賞者を輩出し、校内でも表彰を行っている。 ●読書・図書館教育については例年高評価である。その高評価の中でも、昨年評価が低かった生徒アンケート問20「学校生活を通じて読書に親しみ、図書館をよく利用している」で、今年度は肯定的評価が75.1%（昨年度73.0%）でやや高くなった。コロナ禍の中で、生徒たちは室内での活動がかなり制約されたが、逆に、こういうときだからこそ、知的スペースの図書館利用への導きに力を入れたことが影響したと考えられる。 ●図書館利用の取組は、保護者にも高く評価され、保護者アンケート問22「中学部は、図書館を活用した総合的な学習やプログラムを展開している」においては 		

	90.3%（昨年度 86.9%）と高い評価を受けた。
今後の方策	●次年度もコロナ禍は続くと思われるが、数々の制約がかかる中であっても、本校の伝統的な読書科教育の根幹を変えず、生徒に対する現在のアプローチを続けていく。

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【芸術教育】	自己評価	A
目標	音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の豊かな感性の育成／音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の自己表現能力の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●通常の音楽・美術の授業に加えて、秋に行われる文化祭では、各クラスが合唱や器楽演奏を披露する音楽コンクールや、学年ごとにテーマを設定し生徒全員が作品制作に取り組む美術展などを開催している。 ●コロナ禍の中にあつて、活動に制限がかかり、発表形式のものはほぼできない状態の一年であった。そのことから評価は生徒・保護者ともに下がることが予想された。実際、保護者アンケート問 24「中学部は、音楽・美術を中心とした芸術教育により、生徒の感性と表現力を育成している」に対する肯定的評価は 78.0%（昨年度 82.4%）で、昨年度より低くなっている。しかしながら、生徒アンケート問 23「音楽・美術などの芸術活動を通して、表現する楽しさを味わい、豊かな心が育っている」に対する肯定的評価は 77.0%（昨年度 70.3%）で、逆に昨年度より高くなっている。これは、ほとんどの発表の場が奪われていく中で、教科の努力により、感染防止対策をとったうえで、なんとかクラス対抗の文化祭の音楽コンクール（合唱）を開催したこと、直前に事前撮りの映像配信という形に変更になってしまったとはいえ、クリスマス礼拝の中の音楽的要素を堅持したことなどに対して、生徒が高く評価をしたことによると考えられる。 		
今後の方策	●芸術のどの分野においても、実技や発表の場を、生徒をはじめ、皆が求めていることは明らかなので、来年も、新型コロナウイルス感染予防策をしっかりとしながら、可能な限りこれまでの活動を続けることを目指す。		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【体育教育】	自己評価	B
目標	充実した体育教育による児童生徒の心身の健全な発達		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●通常の体育授業の中では「フェアプレー精神を育み、努力が成功につながる自信を獲得する」ことを目標に、多岐にわたる運動種目を経験させている。 ●コロナ禍の中で、通常授業、全校駆け足、そして更衣にいたるまで、全てにおいて制限がかかり、体育活動が得意の生徒にとっても、不得手の生徒にとっても、満足のいく状態ではなかった。全校駆け足に至っては、例年 100 日近く行っているところ、今年度は 10 日に満たない回数であった。生徒アンケート問 24「体育の授業などにより心身が鍛えられている」に対する肯定的評価は 81.4%（昨年度 83.4%）と昨年度にくらべて低くなっている。 		
今後の方策	●体育活動のどの分野においても、実技や発表の場を、生徒をはじめ、皆が求めていることは明らかである。また、体育活動は、感染症への対策が他の分野にもまして求められる。次年度も、新型コロナウイルス感染予防策をしっかりとしながら、可能な限りこれまでの活動を続けることを目指す。		

評価項目 【テーマ】	関西学院共通項目 【関西学院における一貫教育を含めた総合学院としての観点】	自己評価	A+
目標	スクールモットー“Mastery for Service”の認知度・共感度を知る。／スクールモットー“Mastery for Service”の認知度の向上を図る。／学校の教育が、関西学院の使命である「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながっていることを再認識してもらう。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●昨年度に引き続き、関西学院の建学の精神を表すスクールモットー“Mastery for Service”の理念の共有と実践について、生徒、保護者、教員に対して共通の質問を提示し、回答を得た。生徒アンケート問 26、保護者アンケート問 27、教員アンケート問 30 の「私は、関西学院のスクールモットーが“Mastery for Service”であることを知っている。」に対する肯定的評価は、生徒が 98.0% (昨年度 98.9%)、保護者が 97.2% (昨年度 98.4%)、教員が 100% (昨年度 100%) と高い数値を維持した。また、生徒アンケート問 27、保護者アンケート問 28、教員アンケート問 31 の「私は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”に共感している。」に対する肯定的評価も、生徒は 91.7% (昨年度 90.5%)、保護者は 97.3% (昨年度 96.4%) で昨年度より少し高くなり、教員は 100% (昨年度 100%) であった。これにより、スクールモットー“Mastery for Service”が生徒、保護者、教員の共通の理念になっていることがわかる。生徒アンケート問 28、保護者アンケート問 29、教員アンケート問 32 の「中学部は、『“Mastery for Service”を体現する世界市民』の育成につながる教育を実践している。」に対する肯定的評価は、生徒が 84.0% (昨年度 84.4%)、保護者が 88.9% (昨年度 89.4%)、教員が 91.2% (昨年度 93.9%) で、高い数値が継続的に出ている。このことから、“Mastery for Service”の理念の共有のみならず教育的実践についても、生徒、保護者、教員が相互に受け止めて、実践しようとしていることがわかる。中学部がスクールモットーを基に教育活動を展開していることを、生徒、保護者、教員が共通に理解していることは明確である。</p>		
今後の方策	●スクールモットー“Mastery for Service”の理念の共有と実践についての肯定的評価は高いが、教育活動において、より具体的にその理念をどのように展開するかを検討し、授業や行事等において展開する。		

評価項目 【テーマ】	その他 【コロナ禍への対応】(重点)	自己評価	B
目標	コロナ禍への適切な対応		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●新型コロナウイルス感染拡大状況、官公庁からの各種の要請、生徒と保護者のニーズ、それぞれに対応した取組を行った。</p> <p>●休校措置中は課題作成を行い、生徒には課題を課した。分散登校中は、カリキュラムの再編成を行った。通常登校にもどした後は、新型コロナウイルス感染予防策を徹底しながら本校の教育の根幹たる礼拝や、授業、その他の諸活動を行った。</p> <p>●授業時間や部活動時間は、短縮から始め、段階的に伸長していった。</p> <p>●諸行事の精選を行った(内容変更や中止)。</p> <p>●生徒アンケート問 29「コロナ禍による休校期間中、学習に十分に組み組めた」の肯定的評価は 57.9% で、評価はかなり低い。しかし、それでも 60% 近くの評価が出たのは、オンライン授業の方法について高く評価する生徒がいることによるものだと考えられる。これは、保護者アンケート問 30「コロナ禍についての学校の対応は総じて適切であった」の肯定的評価が 83.7% であることからもう</p>		

	かがえる。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●再び休校措置を執らざるを得なくなる状況が来たときのために、更なるオンライン授業の備えをする。 ●行事に関しては、官公庁の指針に沿いながらも、できるだけ生徒・保護者のニーズに応えられるようにする。

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

- コロナ禍がもたらしたものの、その一端が示唆されました。キリスト教主義教育に関する教員間の理念共有度が大きく向上したのは、非常事態下、以前にもまして、中学部が拠って立つ基盤に意識が向いたものと考えられますが、更なる分析が必要です。
- また、オンラインでの授業動画を教員が相互に閲覧できる「公開性」によって、自らの教科や教育課程全体への理解が促進したと言えます。平時でも（にこそ）、授業、ひいては教育活動の「公開性」が重要であることの証左となりました。
- 他方、生徒からは休校期間中の学習への取り組みにくさが伝えられ、対面授業の大切さが再確認されました。オンラインにより向上の契機を与えられた教員の授業力が平時において更に向上するためにも、中学部として授業準備の時間確保に向けた環境整備が引き続き求められます。
- 問題行動への対応や美化などにコロナ禍が影響した生徒指導面では、生徒会メンバーを中心に生徒たちが「自主自律」の精神を未来に繋ぎました。自ら判断し行動できる力を、コロナ後も大切に育んでいきたいと願います。
- 保護者からは、学校との連携や補習などで課題を示されたものの、保健管理やさまざまな特色教育を含めた中学部の教育全般に関し、概ね高い評価をいただきました。
- しかしながら、アンケート回答の選択肢が四択であることから、同じ肯定的評価でも「強く思う」の割合を注視し、中学部が目指す生徒像の生徒の育成に向けて、引き続き学校の改善に取り組んでいく所存です。

2020年度の評価をふまえて2021年度に予定している評価項目、テーマ等

- 評価項目については、①教育課程・学習指導、②生徒指導、③保健管理、④保護者との連携、⑤キリスト教主義教育の実践、⑥特色ある教育の実践、⑦関西学院共通項目⑧その他の8項目を継続して取り上げる。

第三者評価/学校関係者評価

今年度は従来の継続的な改善の取組だけでなく、コロナ禍への対応も必要となりましたが、その両方への尽力がよくうかがえました。さらに、コロナ禍の対応の中で、今後の学校改善につながる成果も生まれていました。「わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを」(ローマの信徒への手紙5章)。“Mastery for Service”に通じるこの言葉が、中学部のこの一年を象徴していたと思います。以下、主要な点についてコメントします。

<教育課程・学習指導>

- コロナ禍でも生徒の学びを保障するために全校の教職員が尽力したことを高く評価します。
- とりわけ、休校・長期休暇中の課題や授業動画を教員間で共有・相互閲覧した取組は、次年度以降のBYODの展開などにも継承されるものであり、非常に高く評価します。
- 他方、教員の授業研究のために時間的・資金的・心理的状況を整備することの重要性が改めて認識

されました。今後のICT教育の推進のためにも、ライフ・ワーク・バランスを尊重した整備が進むことを期待します。

〈生徒指導〉

- 学校行事などを通じた自主自律の精神の育成への取組を非常に高く評価します。学校行事縮小の中、安全面にも配慮しながら、生徒の自主性を育む機会の確保に尽力されました。
- 「昨年度より行事が少ない」など生徒の不満もあったでしょうが、保護者には肯定的な評価を得ていることから、制約の多い中での努力は伝わったと思われます。
- また、そうした努力の中で、生徒指導における対面指導の意義が、改めて確認されたでしょう。そこで得られた知見が、次年度以降も継承されることを期待します。

〈保健管理〉

- 従来の改善を進めるだけでなく、コロナ禍への対策にも丁寧に取り組んでおり、保健管理体制の整備が進んだことを評価します。

〈保護者との連携〉

- PTAだよりの発行など、制限された状況の中でも積極的に取り組んだ成果が、保護者アンケートにおける全体的な肯定的評価の傾向につながったものと評価します。

〈キリスト教主義教育の実践〉

- コロナ禍への対応の中で、ひとりひとりがキリスト教主義の教育理念に立ち返った結果が、教員アンケートの肯定的評価につながったものと考えます。高く評価します。

〈特色ある教育の実践〉

- コロナ禍の制限の中、図書館利用が推進され、音楽コンクールも開催されたことは、特色ある教育を堅持しようとした結果であり、非常に高く評価します。
- コロナ禍における体育活動は細心の感染症対策が必要となりますが、可能な取組が模索されているところと理解します。

〈関西学院共通項目〉

- 先述しましたが、学院の教育理念がコロナ禍の中で精神的拠り所となっていたことを高く評価します。これまでの継続的な取組の成果と理解します。

〈コロナ禍への対応〉

- 休校措置の中での課題の提供、オンライン授業の体制整備、カリキュラムの再編と柔軟な運用、感染防止対策の徹底、行事の精選など、生徒の学びを保障するためにさまざまな尽力がなされたことを高く評価します。
- また、コロナ禍対応が次年度も引き続き必要だと予測される中、学習への取組に関する今年度の生徒自身の評価が低かったことは、今後の課題を示唆しています。劇的な改善は困難でしょうが、生徒の学びの保障をめざしたこれまでの努力が継続されることで打開されると思われます。

〈教育課程・学習指導〉

- 毎年「学習ガイドブック」を配布し、生徒だけでなく全教員が共通理解のもと学習指導に取り組んでいることの効果は大きいと考えます。
- 外部試験である学力推移調査を実施し、結果や分析を全教員に開示することにより、生徒の客観的な学力の把握に努め、日常の授業の工夫や改善が行われています。
- 教員会議で生徒の情報交換を実施していることで、教科、領域を問わず全教員が個別の生徒についての情報を共有できています。
- 次年度からスタートするBYODを有効に機能させるための取組が重要となります。
- 生徒の学習状況については、定期試験だけでなく、小テスト等様々な方法で伝達することにより、生徒も自分自身の学習目標を具体的にえがくことが出来るようきめ細かい工夫がなされています。
- 英語と数学の一部の授業に分割少人数化を導入していることにより、個々の生徒にきめ細かい指導ができるとともに興味関心を高めることにもつながっていると考えます。
- また、基礎的な内容を定着させることと併せて発展的・応用的な内容にも取り組ませることで、生

徒の学力を保証し、興味関心に応じた授業が展開されています。

- 応用的・発展的な学習、英語・数学の一部の授業への分割少人数化の導入、補習の実施など、個々の生徒の学習状況にあわせた学力向上の取組が行われています。
- ほとんどの生徒がクラブ活動に参加しており、そこからも「感謝、祈り、練達」の教育理念の具現化を図ろうとする生徒及び学校の意欲や姿勢が分かります。併せて、クラブの活動停止期間を設けることで、学習との両立や他の幅広い体験につなげる工夫がなされています。

＜生徒指導＞

- 社会の基本的なマナーについて、全教員で重点的に指導していることの意義は大きいです。
- 生徒会活動が活発に行われており、各行事等も実行委員会を中心に積極的な生徒の関わりがあります。意欲をもった生徒による主体的な学校行事の運営や参加の状況が伺えます。
- 教員が複数年生徒会を担当することで、生徒会活動の継続性が保たれています。
- 問題行動については、「迅速・適切・誠実」を念頭に学年と生徒指導部さらに管理職が組織的に対応し、解決を図っています。
- 生徒の問題等について、教員の共通理解を図るために生徒指導部内に情報共有フォルダーを作成していることは、教員が同じ意識で指導にあたるために有効に機能するものと思われます。

＜保健管理＞

- 心電図検査を毎年実施していることは、学校保健安全法を超えた先進的な取組であり、また事後措置も丁寧に行われています。クラブ活動や体育科授業だけでなく、生徒の安全を守るための素晴らしい取組です。
- 身体面の変化だけでなく、心理的要因での保健室ニーズが高まっていますが、保護者、学校、カウンセラーが有機的に連携し生徒のサポートに努めています。
- 多様化する生徒や保護者のニーズに対して、気軽に相談できる保健室体制をさらに充実させることが望まれます。

＜保護者との連携＞

- コロナ禍の中、PTA集会、PTA幹事会を開催したり、オンラインを通じた保護者との面談を行ったりして、保護者に学校への協力と学校理解を促す取組を工夫しています。
- ウィズコロナにおけるPTA活動や、保護者と学校の関り方などについては、継続した検討が必要です。

＜キリスト教主義教育の実践＞

- 毎日の礼拝、聖書科授業を学校の重要な柱として、キリスト教主義教育についての理解を深め、生徒の人格の完成に向けた取組が行われています。
- コロナ禍にあっても「オンライン礼拝」や「PTA聖書を学ぶ会」を継続したことは、これまで受け継がれてきた関西学院の建学の精神を改めて深く認識するきっかけとなっていると思われます。
- また、「オンライン礼拝」は中学部の生徒だけでなく、卒業生はじめ多くの方からも一緒に礼拝を守れたという声を聞きます。
- 毎日の礼拝の時間に合わせ、生徒礼拝は放送で行うこととなりましたが、生徒が積極的に礼拝に関わろうとする姿勢がわかります。また、早天礼拝も定着しています。
- 生徒による自主的な運営により、さらに充実した礼拝となることを期待しています。

＜特色ある教育の実践＞

- 整備された図書館を活用して読書科の授業が実施されており、読書習慣を定着させるとともに、様々な情報の獲得・整理・活用・表現の技能が高められています。
- 中学部の特色でもある読書科の取組により、生徒が読書に親しむ態度が形成されていると同時に、教科を超えた探求的な学習を行う力の育成が行われています。
- 音楽・美術を中心とした芸術教育の充実によって、生徒の豊かな感性を育むよう努めています。音楽コンクールや美術展では、生徒の意欲的な取組が行われています。
- 中学部の大きな特色の一つである全校駆け足が、今年度は大きく縮小となりましたが、ウィズコロ

ナを見据えて、次年度以降の実施の在り方の検討が必要です。

〈関西学院共通項目〉

- アンケートでは、スクールモットー“Mastery for Service”に関わる質問についての生徒・保護者・教員の肯定的な回答が圧倒的に高い数値となっています。長い歴史を持つ中学部においては“Mastery for Service”の精神が深く浸透し、しっかりと根付いていることが分かります。
- “Mastery for Service”は生涯にわたる到達目標ですが、中学部における生徒の具体的な姿としてどのような姿を目指す生徒像とするのかを明確にすることが大切です。

〈コロナ禍への対応〉

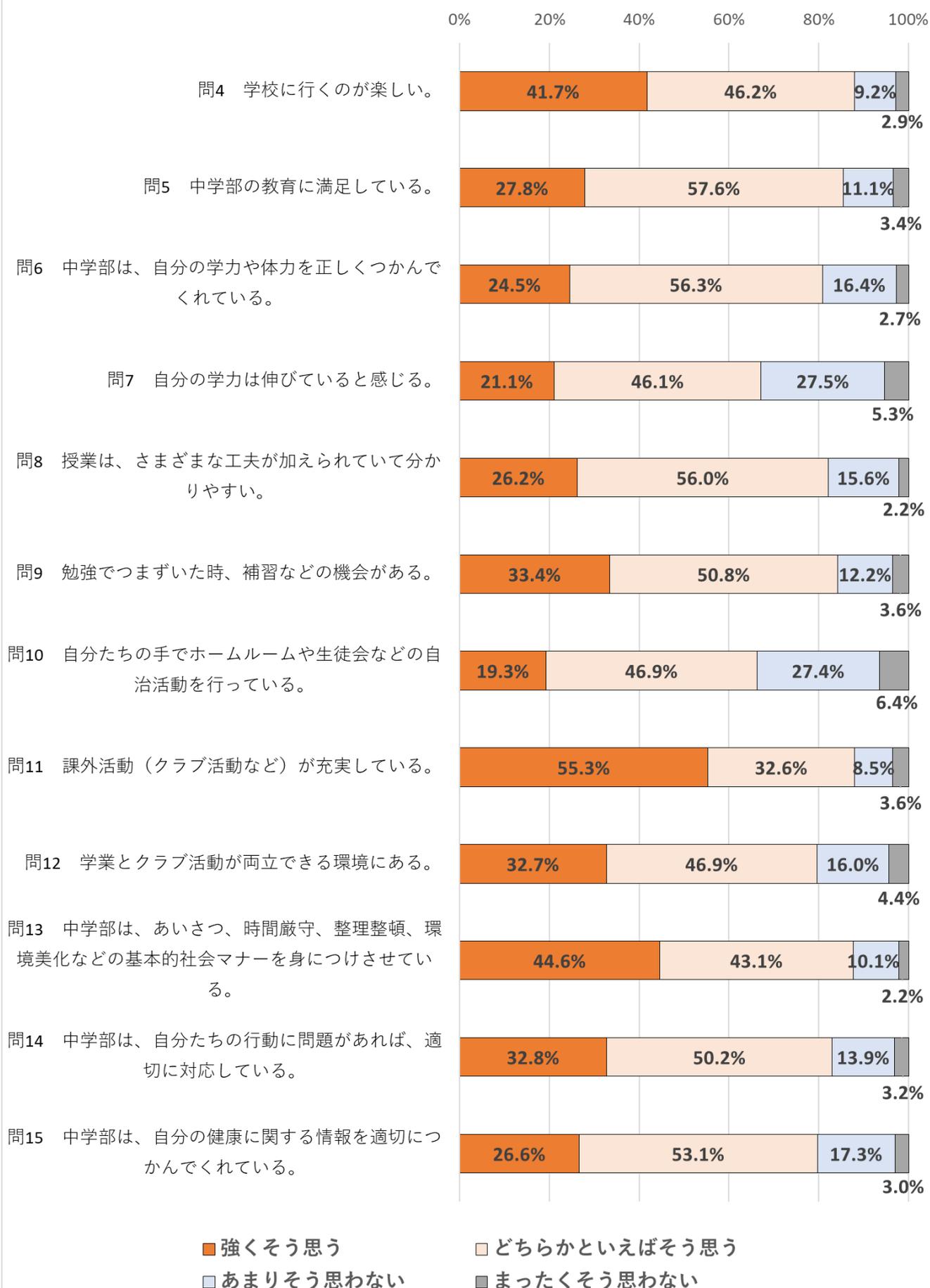
- 今年度の中学部学校評価の評価項目である〈教育課程・学習指導〉〈生徒指導〉〈保健管理〉〈保護者との連携〉〈キリスト教主義教育の実践〉〈特色ある教育の実践〉〈関西学院共通項目“Mastery for service”〉の全てについて、新型コロナウイルス感染予防策が大きく影響しています。
- コロナ禍の中で、早期からオンラインによって生徒とのつながりを持ち、教育活動を継続できたのは中学部がこれまで培ってきた学校力によるものだと考えます。
- 学校再開後も新しい生活様式の中で、生徒たちが真剣に授業を受け、規律ある学校生活を送っている様子が分かります。
- これらのことが、保護者アンケート問30「コロナ禍についての学校の対応は総じて適切であった」に対する83.7%という高い肯定的評価につながっていると思われまます。
- ウィズコロナ、アフターコロナの時を見据えて、BYODの推進やオンライン授業と対面授業のハイブリッドなど、新しい授業等の在り方を生徒、保護者と一緒に構築していく一步を踏み出すことが望ましいと考えます。

〈中学部全体〉

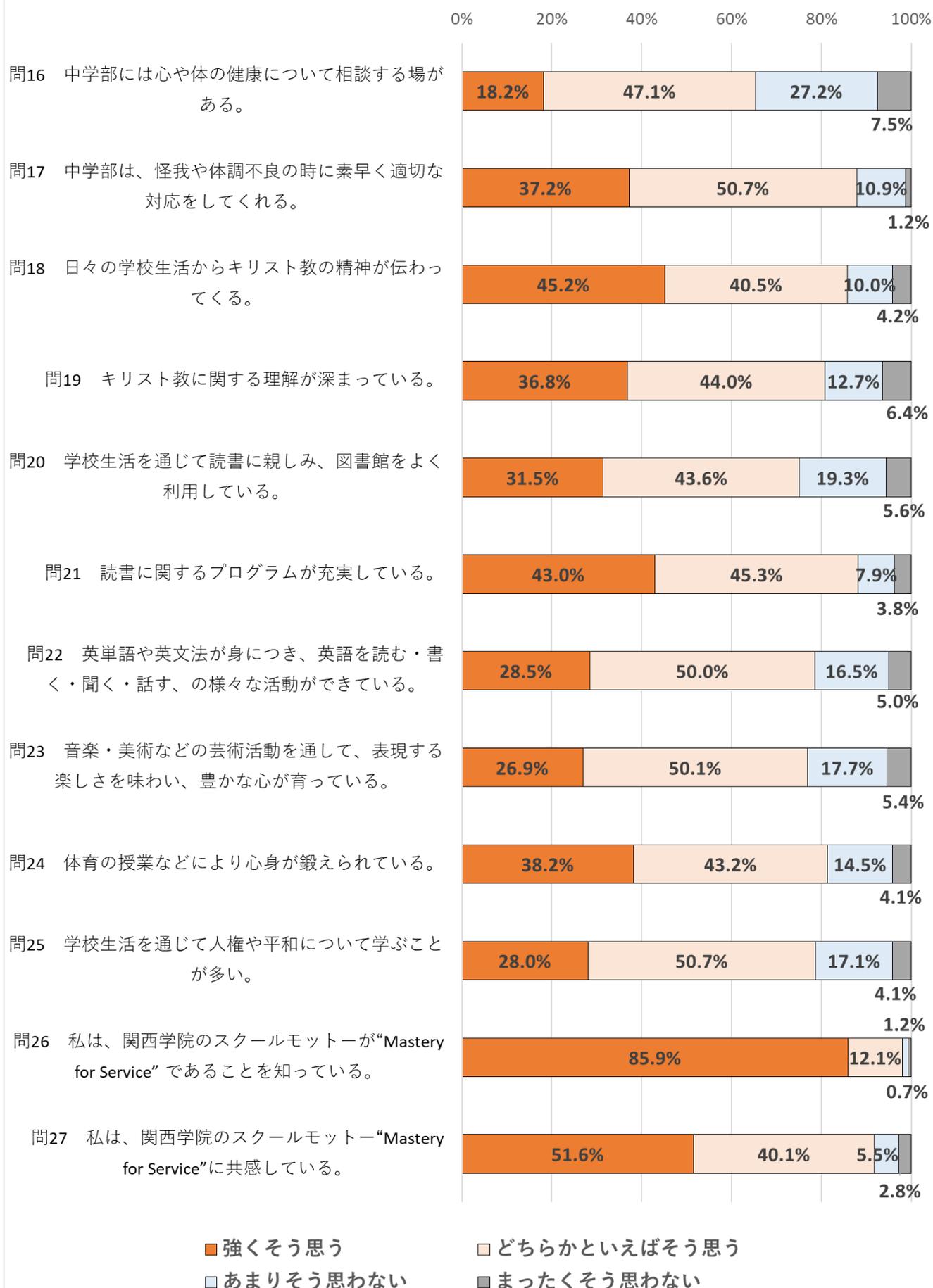
- 中学部の学校生活の様子から、生徒の真剣な学習や生活の様子、そして教職員の生徒に対する本気度や熱意を強く感じることができます。そこから、中学部が学校をあげて、将来の人格の完成に向けた人間力の育成に努めていることが伺えます。

2020年度学校評価

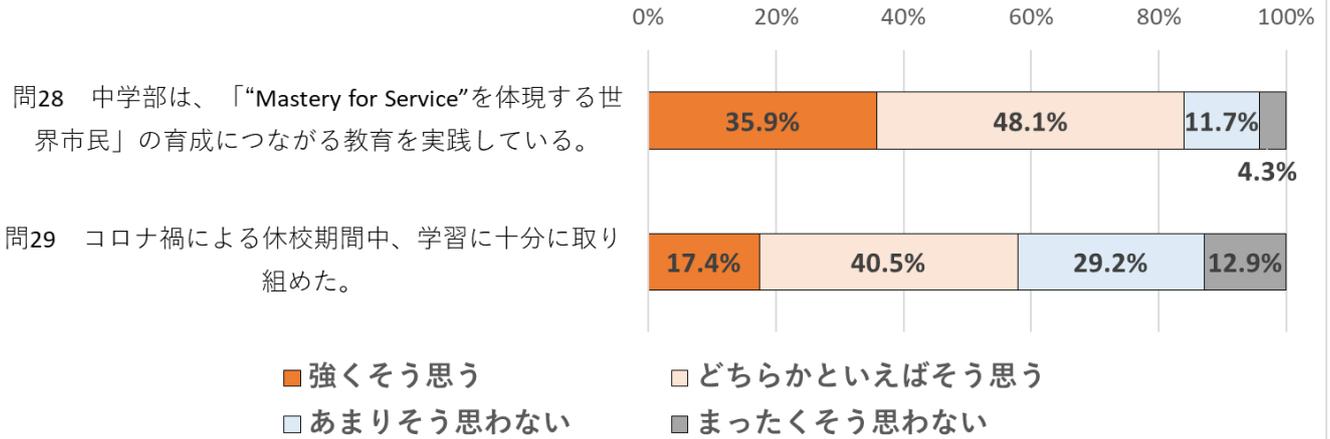
2020年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒 (回収率 99.3% 731人/736人中)



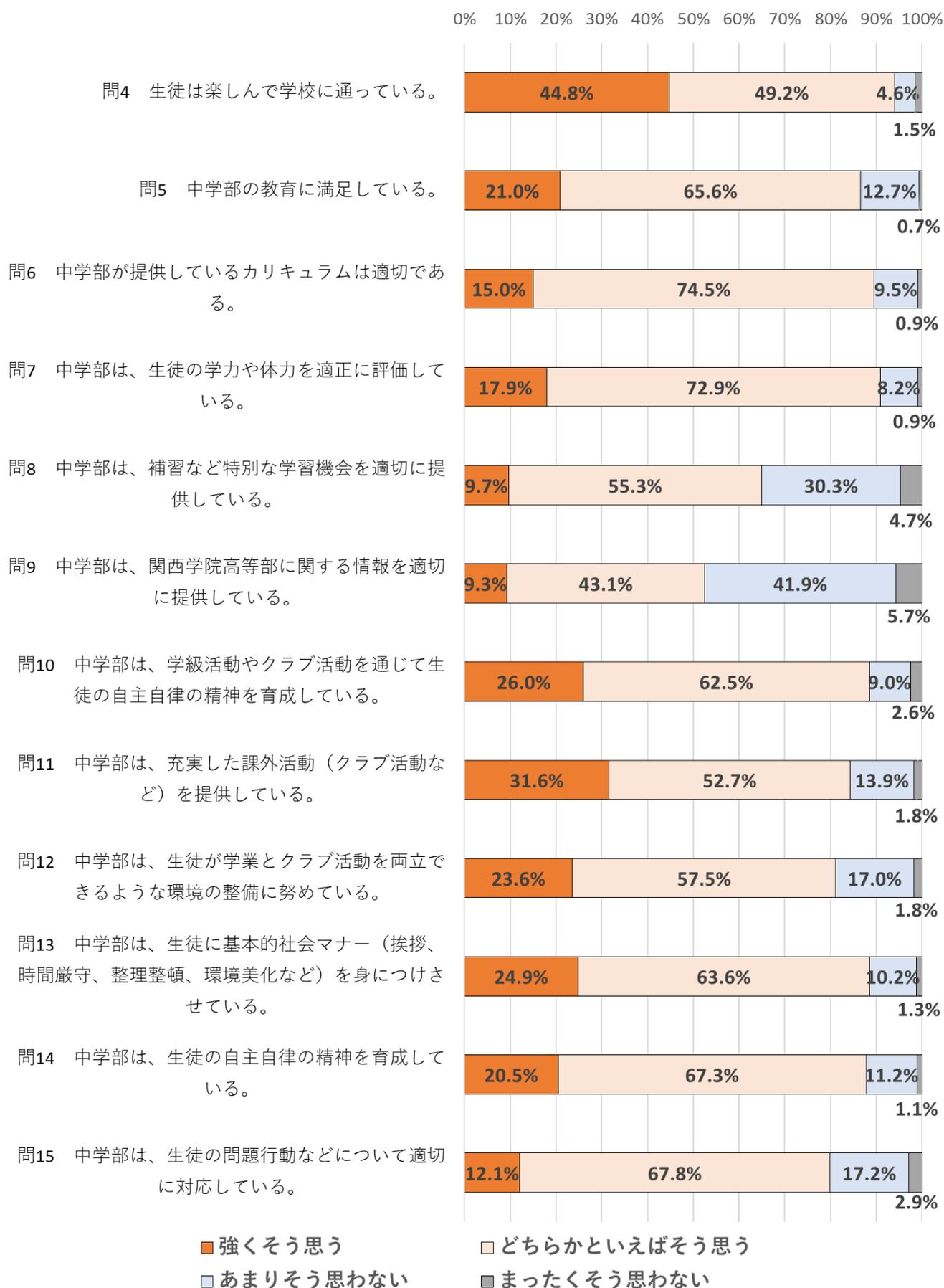
2020年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒 (回収率 99.3% 731人/736人中)



2020年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒 (回収率 99.3% 731人/736人中)

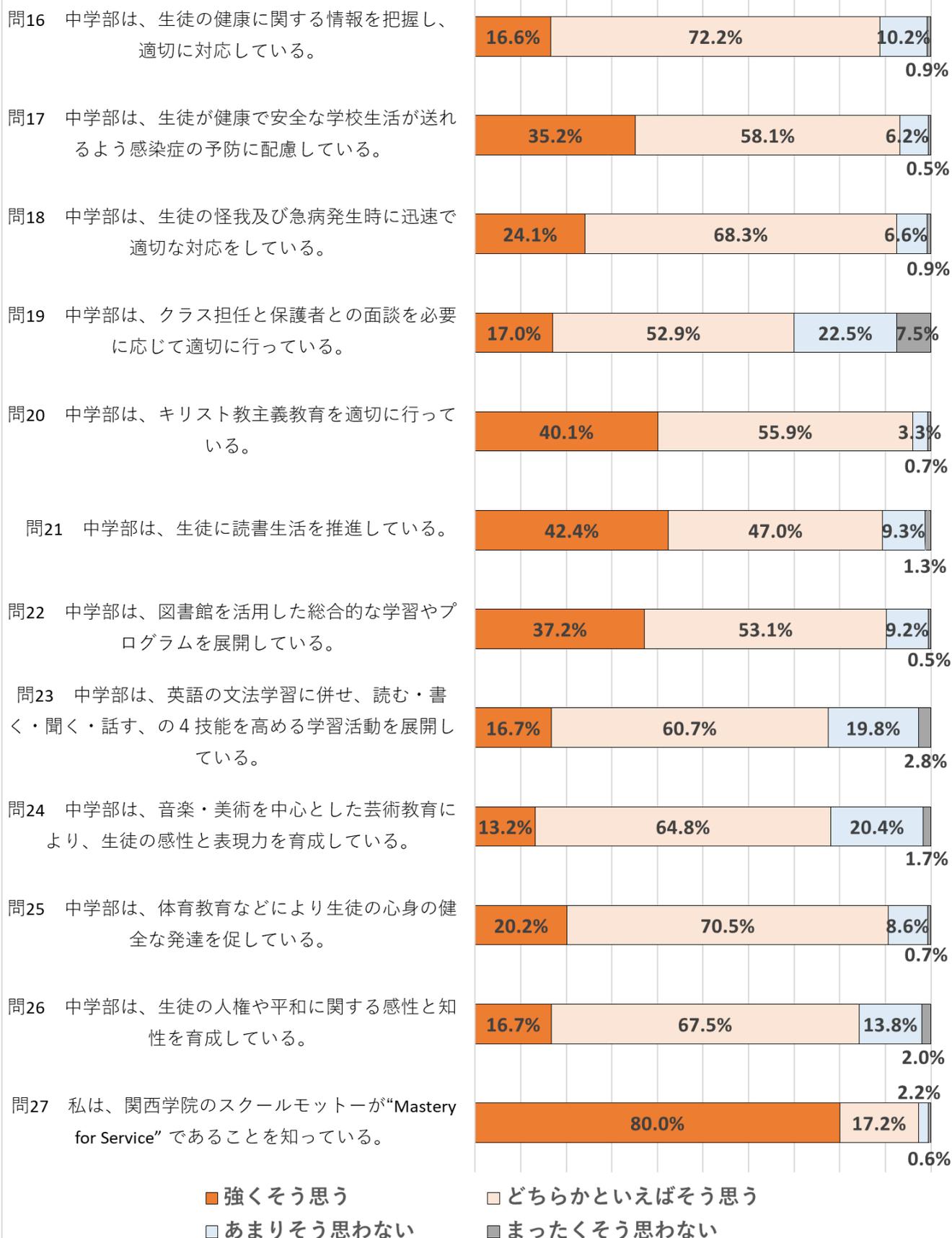


2020年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・保護者 (回収率 74.3% 547人/736人中)

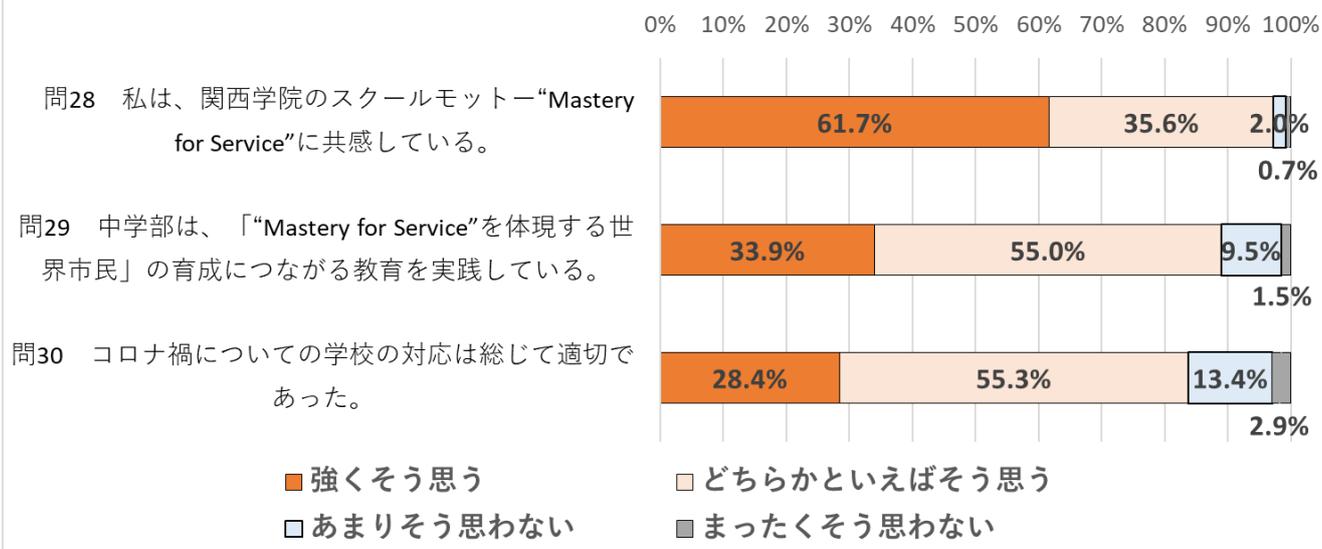


2020年度 学校評価アンケート集計結果
中学部・保護者 （回収率 74.3% 547人/736人中）

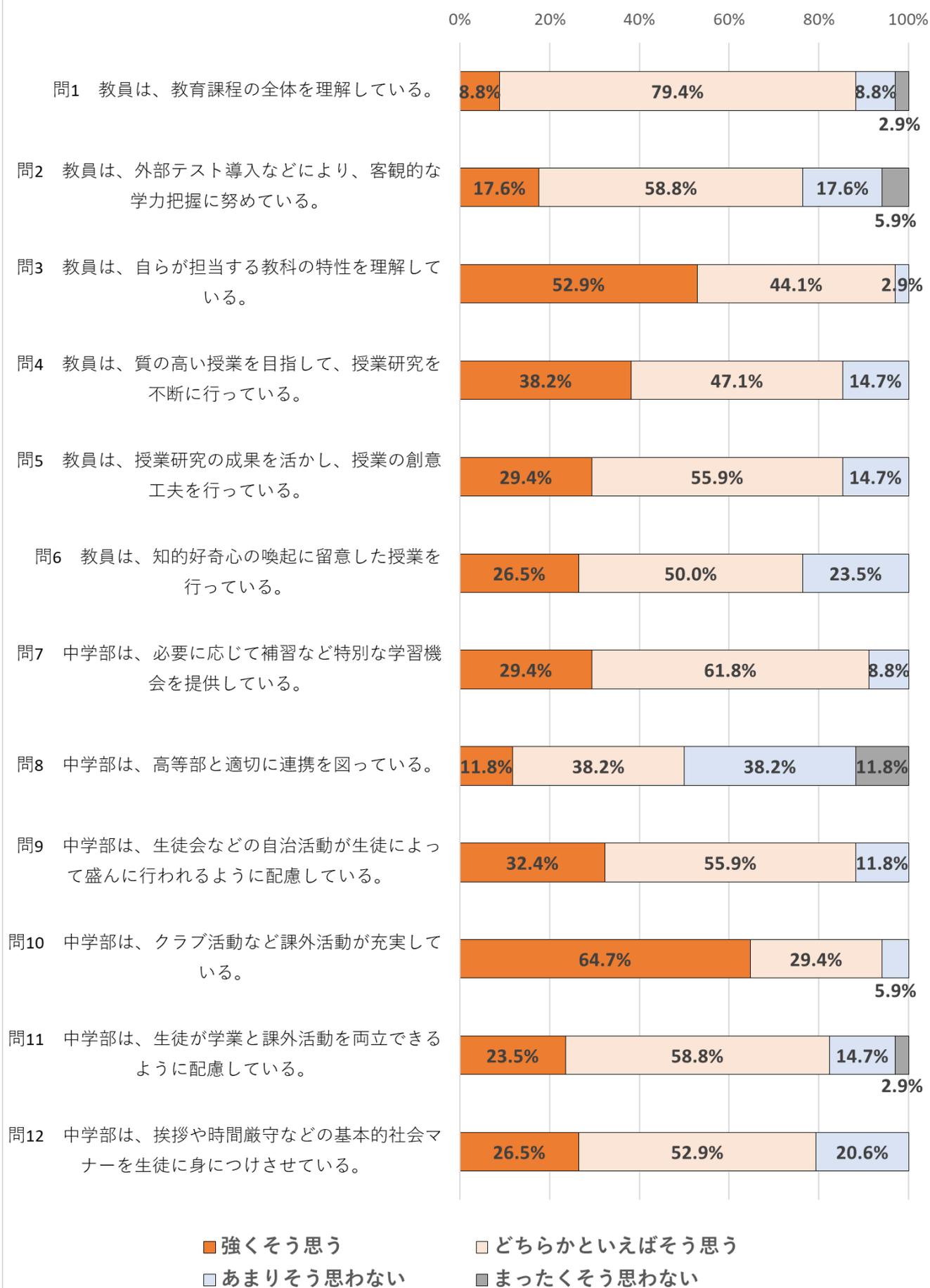
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



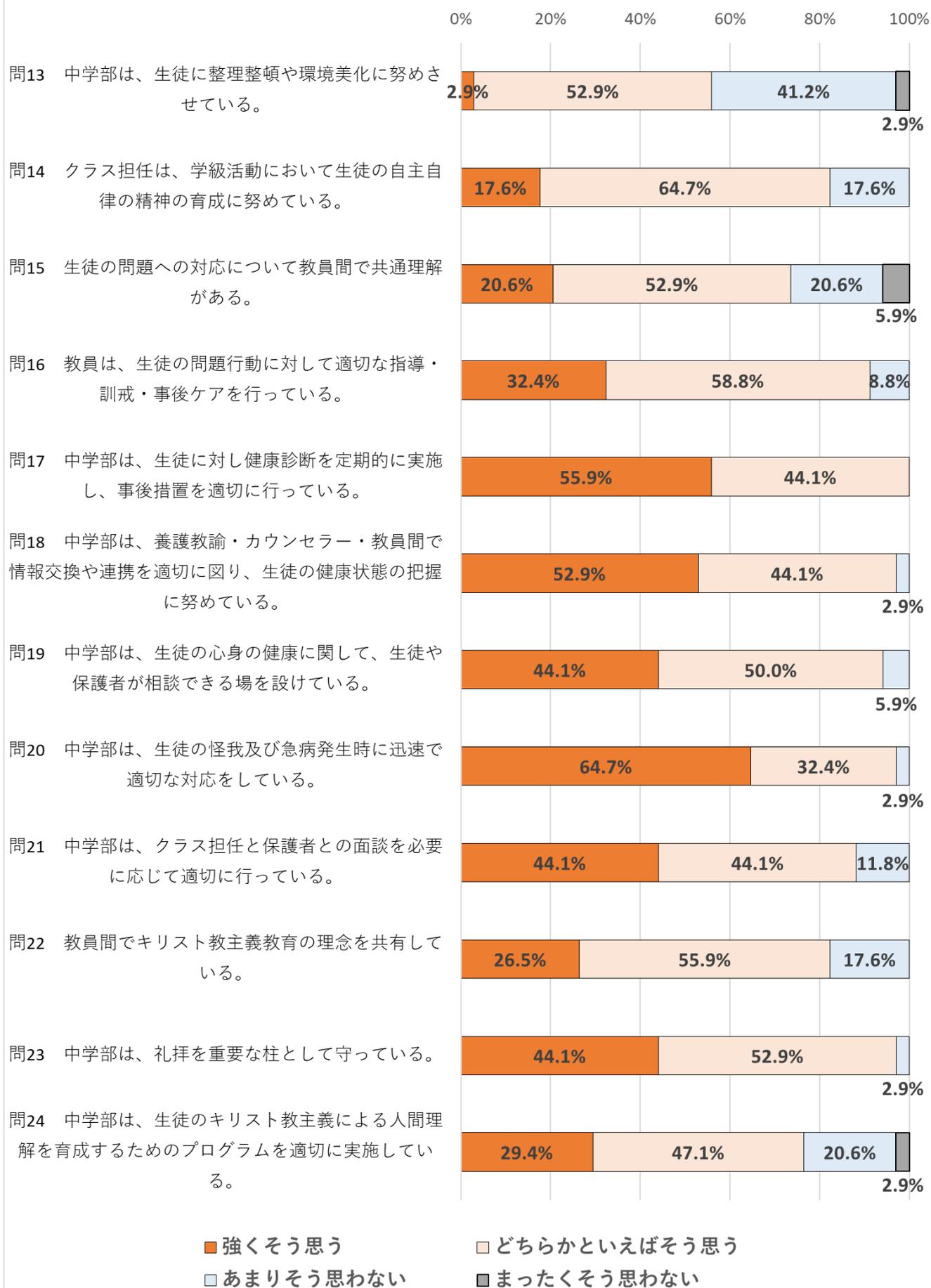
2020年度 学校評価アンケート集計結果
中学部・保護者 (回収率 74.3% 547人/736人中)



2020年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員 (回収率 97.1% 34人/35人中)



2020年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員 (回収率 97.1% 34人/35人中)



2020年度 学校評価アンケート集計結果
中学部・教員 (回収率 97.1% 34人/35人中)

